

農工商經濟論

工業篇。中卷  
永田健助譯

四

福岡第一師範學校  
(學校圖書)

分類號	第	號
部	部	
	總記	
項目	第	項
	講論集	
冊	第	冊
	全 1 冊 / 內第 1 冊	
分類號	第	號
	604.0	

校學範師	部
書	部
番	2
號	4
	5 冊 / 內

T1A1  
67  
N 23

圖書 和圖書 遡



a 1 3 8 0 3 2 7 4 7 8 a

福岡教育大学蔵書

普通經濟論卷之四  
工業學校  
工業篇中卷

東京 永田健助 譯述

第二回

財本

○財本ノ素性 經濟學ハ汎ク諸工業中ニ現出  
スル普通ノ旨意ヲ僅々數目ノ中ニ總括セリ即  
チ勤勞及ヒ財本是ナリ蓋シ此ハ通例生財論ニ  
屬スル科目ニシテ今此篇ニ論スル所ハ其主義  
ハ一ナル氏自ラ適用ノ方法ヲ異ニセザル能ハ

034328

東京工業大学蔵書

工業篇

東京工業大学蔵書

ス是レ勤勞ト財本トヲシテ生産ノ基本說中ニ  
論列スル所以ナリ

凡ソ財本ハ節儉ノ結果ニシテ復更ニ物品ノ造  
出ニ用フル者ナリ總テ財本ヲ造ルニハ左ノ三  
者互ニ相協合シテ共ニ働カサルヲ得ス第一某  
物料ニ勤勞ト財本トヲ適用シテ造出レタル有  
用品第二ニ情慾ヲ抑遏レテ此物品ヲ節儉スル  
ト第三更ニ物品ヲ造出スルカ為ニ之ヲ使用ス  
ルト是ナリ

蓋シ此中ノ主要ハ第一及ヒ第二目ニシテ財本

ノ贏縮ハ全ク之ニ關係ス凡テ產物僅少ナレハ  
決レテ許多ノ財本ヲ有ツト能ハス但產物多シ  
トイヘ氏悉ク之ヲ消費レテ節儉スル所ノ者僅  
少ナレハ是又財本ヲレテ饒カナラシムルト能  
ハス何トナレハ生財節儉消費及ヒ財本ノ四者  
ハ毫モ離レス互ニ相協合スルヲ要スレハナリ  
凡ソ世界萬國共ニ其現存スル所ノ財本ハ前世  
累代ノ人々カ節儉蓄積スル者ニシテ何程之ヲ  
用フルモ又幾百年代ヲ經ルモ有益ニ用フルト  
ヲ得ル者ナリ若シ國家無事ニシテ工業健康ナ

レハ從來蓄積保存シタル財本ニ加フルニ年々歳々造出スル所ノ者ヲ以テスヘキナリ斯ク年々増加スル所ハ者ハ皆節儉ニ由テ成レル者ニシテ即チ無益ハ消費ニ有益ハ消費ハ超過シタルト一般ナリ人苟モ多量ノ物品ヲ產出スルモ其消費許多ナレハ餘ス所ハ寡少ナルノミナラス終ニハ毫モ餘裕ナキニ至ラン若シ其產出スル所多量ニシテ之ヲ節儉スルト愈多ケレハ餘利益多カルヘシ勤勞及ヒ節儉ノ二者ハ經濟學ノ要領ナリトハ其レ是レヲ謂フナリ吾人時ト

シテハ毫モ節儉セス全ク一歳ノ所得ヲ費ヌトアリ又其出入相償フニ足ラサルトアリ此時ニ當テハ國家ノ健康ヲ保ツト能ハス已ムヲ得ス豫メ蓄積シタル財本ノ一部分ヲ消費セサルヲ得サルナリ

○財本ノ使用 第三目タル財本ノ使用ハ最モ財本ノ有効ナル者ニシテ凡ソ生財ノ事ニ適用セル節儉ハ則チ財本ト為ルナリ凡ソ財本ヲ造ルニハ既往ニ產出シタル者ヲ消費シテ將來ノ產出物ヨリ回收スルヲ要スルカ故ニ頭ヲ換ヒ

面ヲ改メ種々無量ノ形狀ト爲シテ之ヲ用フル  
ナリ例ヘハ布帛製造家ハ之ヲ造ルカ爲ニ糸糊  
及ヒ職工ヲ使用センニ此糸及ヒ糊等ノ價銀并  
ニ職工ノ賃銀ハ既往ニ産出シタル財本ナリ而  
シテ此布帛ヲ販賣シテ此三者ヲ辨償スルヲハ  
固ヨリ容易ナレ氏之カ爲ニハ各種ノ器械ヲ購  
求シ且之ヲ裝置スヘキ屋舎ヲ建設シ其他書記  
手代ヲ傭フ等ノ爲ニ許多ノ費用ヲ要スヘシ是  
又既往ニ産出シタル財本ヲ以テ之ニ充サルヘ  
カラヌ如何ナル方法ヲ以テ此等ノ費用ヲ回收

センカ固ヨリ其織出シタル布帛中ニテ全ク之  
ヲ辨償セサルヲ得ス然レ氏其屋舎及ヒ器械ノ  
破損ニ至ルマテニハ多年ノ星霜ヲ經ルカ故ニ  
購求費ハ其保續年限中ニ織出シタル布帛ノ全  
數内ニテ回收スルモノトス又製造管理ノ費用  
モ此年限中ノ織出高ニ配賦シテ引去ラサルヲ  
得ス扱此布帛ノ價ヲ定ムルノ方法ハ一年間ニ  
販賣シタル布帛ノ代價ヲシテ之ヲ織出ス諸費  
用ニ加ヘタル業主ノ利益ニ精密ニ合ハシメサル  
ヘカラス又製造家ハ之ニ入レタル資本ノ金額

ヲ回收スルカ為ニ定例ノ費用中ニ年々若干ノ豫算ヲ定メ漸々磨滅セル器械及ヒ道具ノ破損料ヲ加ヘサル可ラス例ヘハ其器械ヲ十五年間保續スル者ト看做セハ年々之ニ若干ノ修繕料ヲ要スルノミナラス此年限中偶然ノ過失ニ由テ一朝破毀スルトアルモ未タ測知スヘカラス此故ニ其器械ノ購入代價ヲ豫算シテ四百圓ト為シ保續ノ年限ヲ十年間トセハ年々機械ノ磨滅料四十圓ノ外ニ脩繕料トシテ年々ニ八圓ノ豫算金ヲ加算セサルヘカラス若シ其製造場ニ

四千圓ヲ要スル良好ナル水車機械ノ動力ヲ設置セハ水車ハ永年保續スルモ二十年ヲ經レハ破損スヘシ然ラハ年々ノ磨滅料ヲ豫算シ二十圓ト爲シ修繕費ヲ二百圓餘トナスヘシ  
○財本ヲ更新スルト然レハ財本形狀ノ何物タルヲ問ハス之ヲ使用シ更ニ一種ノ物品ヲ造出シテ復タ之ヲ回收セサルヘカラス蓋シ財本ハ早晚必ス消費セラルヘキ物品ヲ産出スルニ從事スレハナリ世人常ニ之ヲ稱シテ蓄積財本ト唱フレハ凡ソ財本ヲシテ收藏セル財貨ト思

惟スヘカラス即チ累世相續テ石層ヲ積累シタル夫ノ埃及ノ古塔ニ於ケルカ如ク毫モ破壊セス之ヲ保存シテ累世漸々ニ積重シタル者ト同一視スヘカラス凡ソ財本ハ既往モ今日モ常ニ活動シテ止マス其活動スル者ハ即チ精氣ナリ蓋シ富ハ之ヲ用フルニアラサレハ財本タラサレハナリ今日吾人カ所有スル財本ハ悉ク祖先ヨリ傳承シタルニアラス其傳來ト稱フヘキ者ハ僅ニ史傳ニ垂ル、所ノ大土木ニシテ即チ波止場、港灣及ヒ道路、橋梁其他永遠ニ保續スヘキ

土功ノミナルヘシ此等ノ建築トテモ後人ノ造出シタル財本ヲ以テ修理ヲ加フルニアラサレハ敢テ財本タラサルナリ自餘ノ財本ニ就テ之ヲ論スルニ豈父祖ノ傳來ト謂フヘケンヤ我父祖ノ所有シタル財本ハ今日ノ財本ヲ造ルカ為ニ既ニ已ニ消費シタリ然ラハ今日ノ財本ハ復タ將來ノ財本ヲ造ルカ為ニ順次ニ消費セサルヘカラス故ニ財本ハ終始更新シテ終極ナキ一條ノ鎖鏈ト云フヘキナリ夫ノ蒸氣機械ヲ看ヨ是レ一個ノ財本ナリ何ヲ以テ之ヲ構造シタル

カ即チ作工ノ工銀、鐵具及ヒ其他ノ材料ニ費シタル財本ノカニ外ナラス然シテ此財本ハ何處ヨリ來ルヤ其源ハ土地所有主ヨリ出テ、地主ハ其年々收穫ノ中ヨリ幾分ヲ節儉シテ製造局ニ貸付シタルナリ地主ハ如何シテ之ヲ節減シタルヤ即チ一ハカヲ勞シ心ヲ用キテ耕耘ヲ經營シ一ハ父祖ヨリ傳承シタル財本ヲ以テ購求シタル精巧ノ農具及ヒ子々孫々累世ノ勤勞ヲ積ミテ脩理改良シタル肥沃ノ土地ヲ有スルニ因ルナリ

例ハハ佛國ニ於テ今年一百万俵ノ小麥ヲ收穫スルトセハ是レ全ク本年農家ノ勤勞ヨリ出ル純粹ノ創造物タルカ決シテ然ラス之ヲ收穫スルニハ幾ト之ト同價ノ財本ヲ保有セサルベカラス其財本ハ肥料、種物、農夫ノ衣食住、農用動物、其他農具等ニ用フ可キ者ニシテ此等ハ既往ニ生シタル財本ヲ即今變換シテ生出シタルナリ世人動モスレハ輒チ曰ク吾採掘セル石炭ハ何千貫目アリ吾織ル所ノ布帛ハ何百圓ノ價アリト概シテ之ヲ言ハハ我農業上及ヒ工業上ヨリ



産出セル總額ハ幾百萬圓ノ價アリト云フト雖  
モ皆常ニ更新シテ止マサルナリ學士彌爾氏曰  
ク凡ソ世ニ存在セル財本ハ前百年代ヨリ後百  
年代ニ至ルマテ相傳フレト之ヲ保存シテ相傳  
フルニアラス終始消長シテ世ニ存スルモハナ  
リ之ヲ要スルニ財本ノ増加セルハ猶人口ノ増  
殖セルカコトシ凡ソ世ニ生レタル人ハ年々死  
亡スレト年々生下スル所ノ人口ハ必ス之ニ超  
過スルト宜哉此言ヤ

○財本ハ本分 凡ソ人生社會ニ在テ勤勞ヲ施

スニハ必ス先ツ財本ヲ以テ主トナス文明諸國  
ニ於テハ特ニ然リトス是レ第一ニ財本ノ義ヲ  
説クトヲ要スル所以ナリ凡ソ工藝ノ如何ヲ問ハ  
ス唯其勤勞ノミヲ以テ生計ヲ給スヲ能ハス例  
ヘハ鍛冶師及ヒ製靴師ハ其鐵棒及ヒ軟革ヲ調  
製スルノ間ハ既往ニ産出シタル財本ヲ以テ生  
活ヲ達セサル可ラス麵包製造人若クハ耕作人  
等モ亦然リ蓋シ其生活ノ資ニ供スル者ハ今日  
製スル所ノ麵包ニ非ラス尚今年收穫スル所ノ  
小麥ニ非ラス自立ノ工人ト傭工トノ間ハ此本

源ノ理ニ於テ毫モ異ナル所ナク共ニ既往ニ蓄積シタル財本ヲ以テ生計ノ資ニ供セサルヘカラス唯一ハ自己ノ財本ヲ以テシ一ハ傭主ノ財本ニ頼ルノ差アルノミ勤勞ヲ支配スル者ハ財本ニ在リトハ是之ヲ謂フナリ即チ今日ノ如キ社會ニ在テハ既往ニ産出シタル財本ナキハ一モ勤勞ヲ施ス不能ハ且百工製造ノ盛衰モ現存セル財本ハ多寡ニ關スハシ之ヲ約言スレハ財本愈多ケレハ勤勞愈多シ。社會ニ財本ノ要用ナル得テ了解スベキナリ

○生産財本及ヒ不生産財本 財本ノ本質タルヤ常ニ生産ニ關カルヘキ者ナレトモ吾人往々生産及ヒ不生産財本ノ語ヲ用フ然ル所以ヲ究ムルニ財本ハ一回工業ニ投シ而シテ尚其財本ト為ル者ハ節儉ナリ然レトモ財本ハ其性質ヲ害フコトナク一時其運用ヲ停滯スルコトアリ例ヘハ某製造局ハ其修理ヲ加フル為カ若クハ廢業ニ由リ之ヲ閉局セハ其屋舎及ヒ器械ハ既ニ財本トラサルヘシ何トナレハ是時ヨリ一物ガモ産出セサレハナリ又某賣人カ兼テ仕入レタル貨物

ヲ賣却シテ市場ノ景況ニ由リ次回ノ仕入ヲ見合セ一時其金額ヲ收藏セハ暫時財本ノ活用ヲ失ヒ即時ニ不生産ノ財本ト為ルヘシ是レ商賣上變動多端ノ時ニ當リテハ往々生スル所ニシテ財本ハ消滅セサレヒ利用ノ運轉ヲ失フベキナリ蓋シ其賈人ノ果斷ナキニ由ルカ抑從事スヘキ新事業ヲ缺クカ為メカ之ヲ要スルニ世上ノ勤勞ヲ麻痺セシムルニ至テハ其害一ナリ然レヒ財本中ニ就キ一時空ク收藏スル者ト徒ニ浪費セル者トヲ區別セサルヘカラス若シ前

ノ賈人カ其賣上金ヲ以テ次回仕入ノ好機會ヲ待タス之ヲ酒食遊興ニ費セハ其費ス所多少ヲ論セス自己ハ勿論其邦ノ財本ヲ滅亡シタルナリ若シ之ヲ保存シ好機會ヲ俟テ直ニ之ヲ利用セハ新タニ勢カヲ得テ毫モ前時ノ功用ヲ失ハサルヘシ是ニ由テ之ヲ觀ルニ工商業上ニ變動ヲ生シ一時不景氣ヲ致スコアリテ財本ヲ失フコ多シト雖モ社會ノ利害ニ關シテハ之ヲ遊冶放蕩ニ費ヤスカ若クハ戰爭若クハ天災ニ罹リテ消亡スル者ニ比スレハ其影響ノ鮮歟ナル以

テ知ルヘキナリ  
 ○不動財本 財本ニハ不動ト流通トノ二種アリ今之ヲ區別スルニ最モ緊要ナレハ茲ニ印刷局ヲ擧ケテ之ヲ示サン例ヘハ談局主ナル者ハ之ヲ設立スルニ先ツテ土地ヲ借受ケ首トシテ家屋ヲ建設シコレニ印刷用諸般ノ器機ヲ裝置スルカ爲ニ萬般ノ經營ヲ為サ、ルヘカラス是レ漸ヲ以テ收回スルヲ得ヘキ費用ニシテ其金額必シトヤス而シテ次ニ蒸氣器械并ニ之ニ附属セル諸器用ヲ購求セサルヘカラス之ヲ前

ノ者ニ比スレハ費額尤モ多シト雖レ是又漸ヲ以テ收復シ得ヘキ者ナリ二者共ニ不動財本ノ部ニ属ス往々之ヲ混シテ創業費ト稱フル者是ナリ然レモ判然之カ區別ヲ要スルニアリ何トナレハ前者ハ家屋等ト合併シ居ル者ナレハ其工業衰頽スルカ若クハ場所ヲ易フル等ノニアレハ全ク損失ト爲リ然シテ蒸氣機關其他ノ器用ハ之ヲ他ニ移スヲ得ヘク又之ヲ賣却スルニ當テモ一部分ノ元價ヲ保存スレハナリ又夫ノ印刷局主ノ居住セル家宅ハ既ニ自己ノ

所有物タレハ其建物ノ價ハ悉ク不動財本ノ中ニ屬スヘキ者ナリ若又借家ナレハ便宜ノ時ヲ期シ流通財本ノ中ヨリ其家賃ヲ拂フヘシ斯ク家屋及ヒ大體ノ器械ヲ整頓シタル後輒木活字其他印刷用各種ノ器用ヲ備ヘサルヘカラス此等ノ器用中ニモ亦久シク保續スヘキ者アレハ尚不動財本タルヲ免レス然レモ印書機及ヒ活字箱ノ如ク久シク保續セサルヘシ故ニ吾人能ク是理ヲ分析シテ財本ノ本分ヲ審查ヤントセハ逐一諸器用ノ目錄ヲ造テ其保續ノ年

限ヲ明記セサルヘカラス敏捷ナル業主ハ唯此ニ止マラス其器械ノ用便スル長短ヲモ測量シ且往々時刻ヲ定メ使用スル者ト否ラサル者トニ至ルマテ別々ニ計算ヲ為スニアリ假令ハハ許多ノ活字中ニ就キ亞喇伯活字ハ使用甚ク少キカ故ニ容易ニ磨滅セサレモ不生産財本ノ如ク殆ト常ニ土藏ノ邊隅ニ收メ置ク者ナリ故ニ亞喇伯字ノ書冊ヲ印刷スルニ當テハ豫メ此ニ注目シテ其價ヲ定ムヘシ

有形財本ニ次テ無形財本ヲモ亦計量セサルヘ

カラス是則チ人ノ心智ヨリ出ル者ニシテ外形ニ顯ハレス故ニ其値ヲ定ムルニ甚タ難キニ似タレ氏物料ト等シク真正ノ値ヲ有ツモノナリ即チ製造家ノ智巧聲聞此智巧ノ成果製造局ノ章標製出品ノ發明工夫等及ヒ公然免許ヲ得タル者或ハ彼等ノ世人ニ秘シテ私ニ保存スル者是レナリ是レ余カ前回(勤勞分科)ニ於テ已ニ説明スル所ナリ是故ニ其工業ノ不動財本ハ左ノ四種ヲ含有スルモノトス

第一 家屋(業主ノ所有物タラハ)

第二 大小器械ヲ整頓スルノ費并ニ諸器用(水力、蒸氣カモ其中ニ入ル)ハ費用就中器械ハ最モ肝要ナル一分科ニシテ併セテ創業費ト稱ハル者

第三 附屬諸道具

第四 無形財本

○器機 前ニ云フカ如ク器機ハ工業上簡要ノ部分ニシテ今日ハ世上普ネク之ヲ用ヒ財本中最モ勢力アル者ノ一ナリ今ヲ距ルニ二百年前

ニ當テハ器械ト稱スヘキ者アルモ僅タニ過サ  
 ルノニ當時若シ經濟學ヲシテ一科學クラシム  
 ルモ蓋レ亦之ヲ道具ト混同セシナラン穩當ニ  
 之ヲ言ヘハ凡ソ器械ハ道具ノ完全シタル者ニ  
 外ナラス試ミ之ヲ云ハシニ造物主カ人體ニ  
 賦與シタル器用ハ獨リ手足ノ爪ノミ凡ソ吾人  
 ノ所有物ハ皆聰明智巧ノ致ス所ニシテ夫ノ漁  
 人ノ釣針ヲ水底ニ下シ魚ヲ餌シテ之ヲ得ル所  
 ノ釣竿若クハ耕者ノ鋤鋤若クハ鐵ヲ滑カナラ  
 シムル鍛冶師ノ鑄若クハ巧工ノ鋸等ノ如キハ

皆道具ニシテ即チ器用ナリ之ヲ要スルニ工人  
 ハ隨意ニ動ク所ハ不動器械ナリ鑄鋸槌釘等ノ  
 如キ工人カ四肢ヲ用ヒテ運用スル時ハ之ヲ區  
 別シテ道具ト云フ唯之カ指揮ヲ爲スノミニレ  
 テ自ラ運轉スル時ハ之ヲ器械ト云フ假令ヘハ  
 隣人カ手ニテ板ヲ挽ク鋸ハ道具ナレ氏夫ハ工  
 人カ側ニ居リ唯之ニ木材ヲ出スハミニシテ挽  
 割ル所ハ圓形鋸ハ即チ器械ナリ耕者ノ鋤鋤ハ  
 道具ナレ氏牛馬ノ力ヲ以テ運用スル時ハ器械  
 ナリ舟楫ハ道具ナリ小蒸氣船ノ車輪ハ其器械

ノ機關ナリ抑小舟ハ器械ナルカ將タ道具ナル  
カラクリカ裁縫師カ自ラ動カス所ノ裁縫器械ハ之ヲ稱  
シテ器械ト稱フルアレモ亦一ノ道具ナルヤ故  
サラニ此等ニ就テ區別ヲ爲スヲ要セサルヘシ  
蓋此種ノ類ヲ稱シテ器用ト云フナリ  
第一凡ソ人類ハ何等ノ貨物ヲ造ルニモ小ハ即  
チ裁縫人ハ針ヨリ大ハ以テ壯宏ナル製紙場ニ  
至ルマテ必ス器械ヲ用ヘサルヘカラス第二器  
機愈完全ヲ致セハ前ト同一ノ勤勞ヲ施シテ其  
得ル所ハ結果ハ益多カルヘシ例ヘハ從來鋸ヲ

手ニシ以テ一日ニ板一百箇ヲ挽割リタル工夫  
ヲシテ器械ノ鋸ヲ使用セシメハ勞スルト少ク  
シテ一日ニ六百箇ヲ挽割ルトセハ其利益ハ則  
チ六倍ナラスヤ又從來農夫カ手取車ニテ一日  
一萬五千尺ノ絲ヲ紡キタリシカ今之ニ授ルニ  
最モ速ニ運轉スル八百本ノ針ヲ備ヘタル紡績  
器械ヲ以テスレハ同一日ニシテ一千五百萬尺  
ノ絲ヲ紡キ得ベシ其利益ハ幾多ナルヤ實ニ測  
リ知ルヘカラサルナリ  
甚寫字人ハ丁寧ニ文字ヲ騰寫シテ一日ニ四十



業ヲ寫シ得ヘシダナンベルグ氏一タビ出テ、  
 活字器械ヲ發明セシ以來工人ハ一葉ニ殆ト寫  
 本四十葉ノ文字ヲ收有シタル活字ヲ一回組立  
 ツレハ一日ニ一千葉ヲ印刷スルヲ得ルニ至レ  
 リ同氏カ之ヲ發明セシヨリ以來四百年間漸次  
 改良ヲ加ヘ今日巴里府中ノ印刷局ニテ毎日印  
 刷スル者ハ實ニ夥シキニ至レリ蓋シ雜誌及ヒ  
 書籍ヲ除キ唯日々新聞紙ノ員數ノミヲ以テ之  
 ヲ算スルモ此器械發明前ニ方ツテ全ク之ヲ騰  
 寫セシムレハセン州巴里府ニ屬スル州縣ナリ人民ヲ舉

テ全ク之ニ從事シ朝ヨリ夕ニ到ルマテ孜々ト  
 シテ之ヲ寫スモ未タ以テ是ノ如キノ多數ニ至  
 ラサルハシ

茲ニ甲乙二人アリ共ニ手車ニテ荷物ヲ運搬セ  
 ハ僅ニ一百貫目有餘ニ過サルノミ然ルニ此二  
 人ニ完全ナル蒸氣器械ヲ授ケ一人ヲシテ火燒  
 人ト爲シ一人ヲシテ機關師ヲシムレハ凡ソ  
 十八萬八千貫目ヲ運搬スルヲ得ヘシ彼我利益  
 ノ差異何ソ夫レ如此ノ大ナルヤ  
 器械ノ利用斯ク宏大ナリト雖トモ之ヲ構造ス

ルノ費亦大ナリ蓋シ斯、ル運動カヲ獲ルニハ  
最モ高價ノ器械(即チ財本)ヲ備ヘサル可ラス故  
ニ起業者ハ宜シク左ノ如ク豫算ヲ立ベシ曰ク  
新ニ器械ヲ設ケ前ト同量ノ物品ヲ造出スル  
當リ財本(器械)ノ利息ト其消却金トニ充ツベキ  
部分カ器械ノ功用ニ由リ勞者ノ工銀中ニテ節  
減スルヲ得ベキ金額ニ超過セハ之ヲ設ルモ却  
テ利アラズ之ニ反シ財本ニ償ハバキ金額ハ増  
加スルト工銀ハ減少額ヨリ寡ケレハ之ヲ採用  
スルハ利チルニ如カス之ヲ約言スレハ凡ソ何

國ヲ問ハス勞銀ハ割合愈貴ケレハ器械ヲ増設  
シテ、益利益アルヘシトス  
凡ソ工業上ニ專ラ器械ヲ適用スルニ至リタル  
ハ一千七百五十年以後ニ在リ特ニ佛國ノ如キ  
ハ一千八百年以後ノ軌迹ニ在リ其故ヲ究ルニ  
一ハ今前ニ述ル所ノ理由ニ基キ一ハ物理及ヒ  
化學ノ如キ應用學科ノ進歩ニ由リテ第一器械  
ニ蒸氣カヲ加ヘタルヲ以テナリ是故ニ今日諸  
工業ニ器械ヲ採用スルニ至リタルハ利用厚生  
ノ一端ニレテ器械ハ則チ人カヲシテ益自然カ

ノ區域ヲ侵サシメカヲ勞スル益寡ヲシテ人生  
百般ノ需用及ヒ快樂ヲ受ル益多キヲ加フルニ  
至ラシメタリ

論者曰ク器械ハカヲ勞スル寡クシテ其生産  
ヲ多カラシム之ニ由テ益起業者ノ富ヲ致シ終  
ニ工人ヲシテ間暇ナラシムルハ此徒ニ其營  
業ヲ失ハシメテ富者ハ益富ミ貧者ハ愈貧ナル  
ニ非スヤト此理然ルヤ否ヤ首トシテ論究セサ  
ルヘカラス今ヲ距ル一五十年前シモンド氏率  
先シテ器械駁撃論ヲ首唱シ爾來其說ニ左袒ス

ルノ論者輩出シテ愈其說ヲ擴張セリ然リト雖  
氏經濟學ノ本旨タレニ大理ハ以テ此架空ノ迷  
夢ヲ警醒スルニ足ラン第一凡ソ吾人カ物貨ヲ  
購求スルニハ自己ノ産出シタル物貨ヲ以テス  
ヘシ故ニ日々自己ノ工場ニ於テ産出スル物貨  
ノ數益多ケレハ甲乙互ニ授受スル所ノ貨物ノ  
數ハ益多ク隨テ日々功勞ノ報酬モ亦益多カル  
ヘシ第二財本ハ儉約ヨリ成ル者ナリ而シテ備  
工ノ勞銀ヲ支辨スルノ源ハ財本ナリ特ニ起業  
主ニ於テ新發明ノ器械ヲ用フルハ財本ヲ蓄

積スル機會最モ多ク隨テ廉價ニ其産出品ヲ販賣スルヲ得テ益賣捌口ヲ擴張シ終ニ同工業ハ勿論他工業ニ於ルモ益工人ヲ養フノ便路ヲ開クベシ要スルニ勞銀普通ノ割合ヲ増スニ至ルヘシ何トナレハ工人ヲ使役スヘキ財本多ケレハ必ス其勞銀ヲ騰貴セシムレハナリ然レ氏人間社會百般事物ノ變更ト一般ニ凡ソ其工業ニ新工夫ノ器械ヲ採用セシカ故ニ或ハ多少ノ損害ヲ被フルトナキニ非ス然レ氏之ヲ被フル者ハ獨リ工人ノミニシテ特ニ其甚キハ

工人ニ在リト思惟スルハ大ナル誤ナリ蓋シ此際ニ當テハ其營業ヲ易フルト愈速カナルハ損害ヲ被フルト愈少ナカルヘシ何トナレハ速ニ他ニ營業ヲ索ムレハナリ夫レ新器械採用ノ為ニ損害ノ最モ寡キ者ハ流通財本ニシテ之ニ次ク者ハ起業主及ヒ傭工ナリ且其新器械タルヤ其工業ノ面目ヲ一新スルカ如キ性質タラハ其損害ノ尤モ多キハ不動財本ナリ鐵道開設ノ際ニハ馬車營業者及ヒ脚夫等ハ一時其營業ヲ失テ頗ル困難ヲ致セシガ今日ハ三十年前ニ比ス

レハ之カ爲ニ道路ノ便ヲ得セシメタルト火ク  
レ之ニ六倍シ尚之ニ人夫ヲ使役スルト三四倍  
ノ多キヲ加ヘ而シテ其人負ハ多分昔日ヨリ高  
價ノ勞銀ヲ收ムルニ至レリ然レモ國道上ノ旅  
舗ハ之カ爲ニ全ク廢類ニ歸シテ都會ニ於テ新  
タニ建設シタル旅舗ノ資ニ供スル者ハ別途ノ  
財本ナリ

○流通財本 前ニ掲タル印刷主ハ斯ク器械ヲ  
設置スルモ未タ以テ營業スルト能ハス即チ之  
カ爲ニハ許多ノ人負ヲ使役セサルヘカラス第

一ニ帳場ニハ書記ヲ置キ其他蒸氣器械活字箱  
及ヒ印刷機ヲ取扱フ者文字ヲ組立ル者此等ノ  
事業ヲ監督スル者等ヨリ業主ニ至ルマテ毎日  
若干ノ金額ヲ費シテ生計ヲ營マサル可ラス即  
チ業主ハ外ヨリ收入シタル者ヲ費シ書記監督  
及ヒ工夫ハ毎週カ若クハ月末ニ業主ヨリ受取  
ル所ノ勞銀ヲ費ヤスナリ斯ク業主ノ囊中ヨリ  
支給スル所ノ者ハ財本ニシテ即チ傭人ヲ使役  
スルヲ得セシムル資ナリ何トナレハ諸雇人ヲ  
扶持セシムル者ハ即チ財本ナレハナリ

然レ此是皆不動財本ニアラス今其然ル所以ヲ  
説明スヘシ抑流通財本ハ毎月全ク消費スヘシ  
若シ毎日支辨ヲ爲セハ毎日之ヲ消費スト云フ  
モ可ナリ故ニ其作業ヲシテ成丈精細ナラシメ  
サルヘカラス即チ毎日或ハ毎月ニ産出シタル  
貨物中ニテ必ス此費額ヲ回收スルヲ要スレハ  
ナリ是レ流通財本タル者ハ固有質ナリ  
此故ニ數日ノ間ニ全ク消費シ而シテ一個若ク  
ハ數個ノ生産物中ニテ回收ヲ要スル者ヲ流通  
財本ト稱スル所以ナリ夫ノ蒸氣器械ヲ運轉セ

シタル石炭又ハ水税ヲ出シテ使用スル水車器  
械ノ水及ヒ日々使用ノ墨紙等凡ソ原資料ハ一  
概ニ之ヲ云ヘハ即チ流通財本ナリ尚此ニ一區  
別ヲ立ルヲ便トス夫ノ墨及ヒ紙ハ之ヲ消費ス  
ルモ文字ヲ印刷シタル紙葉ト為リテ元質ヲ存  
スレモ石炭水車ノ水器械用油及ヒ夜中就業ノ  
間ニ照ス呀ノ瓦斯等ハ皆空中ニ飛散シテ毫モ  
其形迹ヲ留メサルヘシ然レモ此總費目ニ屬ス  
ル者ナレハ宜シク業主ハ前者ト共ニ回收原資  
料ノ表目中ニ別載スヘシ凡ソ業主ハ其簿記ヲ

シテ務メテ簡明ナラシムルヲ要ス其工業ノ何  
 如ヲ問ハス其逐一詳細ヲ會得セザレハ其業果  
 シテ成就セザレハナリ  
 又之ト一般ニ業主カ日々用フル所ノ酒及ヒ香  
 水等ノ如キハ必需品タラサルモ尋常人ノ用フ  
 一キ者ハ總費目中ニ加フルモ可ナリ但自己ノ  
 身ニ屬スル費用ヲシテ真ニ工業ニ要スル費ト  
 混同スルト勿レ  
 業主カ作工ノ賃銀ヲ給シ且原資料ヲ購求スル  
 ニハ同一ノ金櫃ヨリ支辨スヘシ蓋シ此金櫃中

ニ在ル者ハ正金ナリ銀行紙幣ナリ商賣手形ナ  
 リ爲替手形ナリ其泉貨ノ何如ヲ問ハス總テ之  
 ヲ運轉資本ト云フ一方ヨリハ現在作業ノ費用  
 ヲ給スルカ爲ニ此ヨリ引出シ又一方ヨリハ既  
 往ニ造出シテ賣捌キタル代銀ヲ以テ之ニ收入  
 ス是レ宛モ流通財本ノ并ナリ而シテ凡ソ此中  
 ニ容ル、所ノ資本ハ假令ヒ其中ニ彼我著シキ  
 差異アルモ皆流通財本タラサルハナシ實ニ其  
 一部分ハ業主カ現ニ使用スヘキ正金若クハ銀  
 行紙幣ナラン又其一部分ハ到底回收シ難キカ

又ハ時日ヲ遷延セサレハ回收シ能ハサル證券  
ナルハシ蓋シ某業主ハ商賣上ニ就キ最上乘妙  
手ノ存スル所以ハ此資本ハ出納ヲシテ善ク整  
頓明確ナラシムルニ在リ

故ニ業主ハ其出納ニ關シテ最モ心ヲ注ガザル  
ベカラス若シ其納ルヲ計リテ出ルヲ制セザレ  
ハ金櫃ハ蕩然トシテ空虚ト爲リ中途ニシテ其  
事業ヲ廢止スルニ至ルノミナラス或ハ全ク失  
敗ヲ致スニ至ラン否ラサルモ一時高利ノ資本  
ヲ借入ルハニ至ルハシ若又單ニ納ルノミヲ

計リテ新夕ニ事業ヲ起サス空シク櫃底ニ納レ  
置ク時ハ是レ所謂守錢奴ニシテ其財本巨萬ヲ  
累ヌト雖モ到底無益ナルヘシ之ヲ要スルニ凡  
ソ人トシテ工業ヲ起スノ目的ハ新ニ財本ヲ造  
出スルニ外ナラサルナリ

收入部ニハ尚一層ノ注意ヲ加ヘテ各頃ヲ區別  
スルヲ要ス蓋シ其收入スル所ノ者ハ全ク流通  
財本ヨリスルニ非ス初メ放入シタル者ハ少ク  
モ不動財本ノ中ニ回收セサルベカラス否ラザ  
レハ速ニ工業資本ヲ失フノ歎ナキヲ免レス且



從來着手スル所ノ事業ヲシテ更ニ擴張セシメ  
 ント欲スルモ己ニ適用シタル流通財本ヲ引去  
 リテ之ニ充ツヘカラス必スヤ其純益ヲ以テス  
 ルカ若クハ借り得タル資本ニ由ルベシ何トナ  
 レハ業主ハ今ヨリ二倍ハ不動財本ヲ利用セン  
 ト欲セハ必ス尋常三倍ハ流通財本ヲ具ヘサル  
 可カラサレハナリ然レモ更ニ他ノ工業ニ由テ  
 淨製スヘキ物品ヲ作ル工業アリ此ニ要スル不  
 動財本ハ更ニ流通財本ヨリ多カルベシ  
 吾人カ某工作局ノ目錄ヲ作ルニ方ツテ流通財

本ノ含有スル者ヲ舉レハ即チ左ノ如シ

一 運轉資本即チ各種ノ使役人ヲ保養スルカ爲  
 ニ要スル金額

二 資料即チ小分シテ原資料及ヒ回收スヘキ物  
 料トス又之ニ加フルニ業主一家ノ經費ヲ以テ  
 ス

三 製作ニ供スル產物若クハ尚賣却セシテ土  
 藏ニ儲蓄セル貨物

○ 財本ノ結合 流通ト不動トヲ問ハス凡ソ財  
 本ハ生産上ニ於テ缺クヘカラスナルノ器具ナリ

故ニ務メテ之ヲ造成スルノ許多ナルヲ要ス既  
 ニ之ヲ作ルルハ何處ヲ問ハス勤勞ノ求ムル所  
 ニ從テ容易ニ之ヲ運搬シ此ニ許多ノ財本ヲ集  
 合シテ一大事業ヲ起スニ供スルヲ要ス蓋シ當  
 初ニ財本ヲ造ル者ハ勤勞ト節儉トナリ而シテ  
 需要ノ有ル所ニ從テ之ヲ供セシムル者ハ人ノ  
 自主自由權ナリ之ヲシテ一大事業ヲ起サシム  
 ル者ハ即チ財本ノ結合ナリ  
 某事業ヲ成就センカ爲ニハ業主及ヒ工人等損  
 益相共ニスルノ約束ヲ定ムルカ若クハ業主ハ

損益ニ關セズ一定ノ勞銀ヲ工人ニ支給スルノ  
 約束ヲ以テ互ニ協同スルアリ此ト一般ニ財本  
 モ亦同一ノ事業ニ結合スルヲ得ヘシ其方法數  
 種アリ即チ損益ヲ分ツノ方ヲ以テ資本ヲ合ス  
 ルアリ又種々ノ約束ヲ立テ、業主外ヨリ資本  
 ヲ貸ルアリ(但貸入資本ニ關シテハ尚次回ニ於  
 テ詳解スヘシ)蓋シ合本會社ニ關シ佛國法制ニ  
 於テ定ムル所四綱領アリ之ヲ掲クル左ノ如シ  
 第一某事業ヲ起スニ當テ之ニ關係シタル人ト  
 其人々ノ財本ヲ同名目ヲ以テ集合シ而シテ無

限ニ其責任ヲ帶フル者ヲ名ケテ合名會社ト云  
ノ第二會社ノ負擔スヘキ責任ハ社中各自ノ名  
目ニ關セズシテ唯會社ト其財產トニ係リ且該  
社ニ資金ヲ貸シタル者ニ向テ社員ノ所ノ義  
務ハ其株金ノ多寡ニ止ル者ヲ名ケテ有限責任  
會社ト云フ第三其株主タル者其起業ニ從事ス  
ルノ間ニ會社ノ資本ヲ某定限ニ増減シ又隨意  
ニ脱社スルヲ得ヘキ方法ノ者ヲ名ケテ不定資  
本會社ト云フ第四株主タル者最初ニ結約シタ  
ル金額ノ外ニ一モ會社ノ盛衰ニ與カラサル者

ヲ名ケテ無名會社ト云フ然レモ無名會社ノ組  
織タルヤ社員ハ唯株金ヲ出スノミニシテ別ニ  
責任ヲ負ハサルカ故ニ立法官ハ政府ニ於テ此  
會社ノ創立ニ關涉シテ得失ヲ檢査スルノ法ヲ  
設タリ

此四種ノ合本會社タル彼此ノ差異ハ寧口財本  
ノ使用方法ヨリハ却テ社員タル者ノ權利上ニ  
在リ此皆起業ノ財本ハ多人數ノ財本ヲ集合シ  
テ之カ用ニ供シ既ニ着手スルノ日ニハ全ク之  
ヲ消費シテ更ニ復タ物品ヲ造出シ而シテ其損

益ヲ見サルヲ得サレハナリ之ヲ要スルニ此四  
 種中最初ノ二種ハ社員ノ責任最重大ニシテ之  
 ニ入レタル財本外ニモ施キ及ホス者トス  
 今日鐵道鑛山保險其他製作局等ノ大事業ヲ起  
 スニ多クハ右ニ掲クルカ如キ結社殊ニ無名結  
 社ノ方法ニ據レリ斯ル大事業ハ固ヨリ一人  
 ノ資カヲ以テ企テ及フ所ニアラス且夫レ其資  
 産ヲ有スル者ト雖氏一事業ノ爲ニ全ク自己ノ  
 財産ヲ擧テ之ニ入ルカ如ギ危険ハ敢テ冒サ  
 バルナリ小河能ク大河ヲ造ルトノ諺ハ善ク此

事ニ適當シ近ク譬ヲ取ルモノト云フベシ從來  
 大財主ノ敢テ為シ能ハサル所ノ事業ヲ小財主  
 (時トシテ最小財主)結合シテ能ク之ヲ成就シタ  
 リ今日佛國內ニ數ケル鐵道資本ハ無慮七十億  
 萬フランノ巨額ナリト雖氏僅ニ五百フランノ  
 株券ヨリシテ集成スル所ナリ此結社ニハ二重  
 ノ利アリ一ハ衆人瑣小ハ儉約ヲ爲シテ之ヲ利  
 用スルハ方便ト爲リ一ハ之ヲ聚集スルハ宏  
 大無比ハ大事業ヲ起スハ資ト爲ルナリ

第三回

勤勞ト財本トノ關係

○財本ノ利潤。財本アルモ之ヲ流用スヘキ勤勞ナカリセハ全ク無功ニ屬スヘシ蓋シ財本ハ獨リ蕃殖スル者ニアラス人ノ勤勞モ亦財本ナカリセハ無用ノ長物タルニ過キス前ニ云フカ如ク農工商ノ物産ヲ造ル一トシテ財本ニ由ラサルナシ是故一物貨ヲ産出スルニハ勤勞ト財本ト必ス常ニ結合スルヲ要ス猶桴鼓相須テ用ヲ爲スカ如シ其方法ハ場合ニ因リ種々ノ約束アルニ畢竟彼我共ニ其産出物ヲ相分ツニ止リ

而シテ其多寡ハ之ヲ産出スルカ為ニ盡ス功用ノ多寡ニ關スルナリ

某工人カ己カ道具ヲ以テ己カ所持ノ材料ヲ用ヘ某物品ヲ製造スルカ如キハ最モ單簡ノ例ニシテ是レ一人ニシテ勤勞ト財本トヲ結合シタルナリ然レモ學問上ノ點ヨリ論スレハ二者ノ關係較テ簡易ナル者タラサレモ吾人ハ此二者ヲ以テ親シク混同スルト爲シテ常ニ之ヲ區別セス例ヘハ一舗店ヲ開設セル補靴師ハ其地代及ヒ屋賃ヲ償ヒ自己ノ衣食ヲ給シ且革及ヒ道

具等ノ如キ些少ノ財本ヲ有スヘシ而シテ彼カ  
 平日獲ル所ノ利得中若干ノ部分ハ財本ノ効用  
 ニ由テ生シタル利ナリ彼ハ平生果シテ其然ル  
 ヲ知ルヤ決シテ然ラス唯生計ノ爲ニ勞スル者  
 ト思惟スヘシ然レモ其ハ此財本タル物料ト其  
 主顧者トヲ我友侶ニ讓與スルトアラハ必ス若  
 干ノ價値ヲ有スルトヲ知ルヘシ而シテ之カ為  
 ニ若干ノ代價ヲ受ケ之ヲ他人ニ依托シテ年々  
 是ヨリ若干ノ利益ヲ受ルトヲ得ン若シ其舗店  
 ヲ讓受タル者之カ爲ニ他人ヨリ若干ノ金ヲ借

ラハ多少ノ時日ヲ經ルト節儉ノカトニ由ラザ  
 レバ之ヲ償却スル能ハサルトハ彼自ラ知ル所  
 ナルヘシ是ニ由テ之ヲ觀ルニ財本功用ノ著シ  
 キ以テ推知スヘキナリ  
 又茲ニ甲乙二人ノ織工アリ甲ハ自己ノ織機ト  
 資料ヲ以テ營業シ乙ハ鄰人ノ織機ト資料トニ  
 由リテ營業セリ此場合ニハ甲ノ織出シタル端  
 物ノ代銀ハ全ク其有ニ歸スヘケモ乙ノ有ニ  
 歸スル者ハ僅ニ其半價ニ過ギスシテ餘ハ財本  
 ヲ支給シタル鄰人ノ手ニ歸スヘシ此ニ於テ財

本ノ功用ハ益著明ナルヘシ  
 業主カ工場ヲ設立シテ許多ノ織工ヲ使役スル  
 場合ノ如キハ其功用尚益著明ナルヘシ何トナ  
 レハ財本ノ何如ハ業主ノ帳簿上ニ於テ判然明  
 白ナルノミナラス夫ノ田舎ノ織工ニ比シテ其  
 利潤ノ多キトハ多分財本ノ功用ニ出ツ是レ一  
 言ヲ待タスシテ知ルヘケレハナリ斯ク著シク  
 勤勞ノ生産力ヲ増加スル協合者即チ財本ニハ  
 須ラク適當ハ股分ハヲ與ヘサルヘカラス即チ勤  
 勞ト一般ニ其利益ヲ受クヘキハ必然ノ理ナリ

之ヲ要スルニ財本ニハ必ス適當ノ價ヲ拂ハサ  
 ルヘカラス否ラサレハ其功用ヲ借ル能ハサル  
 ト猶工銀ヲ出サズレハ工人ヲ傭フト能ハサル  
 カ如シ蓋シ某友人ハ無利息ニテ金銀ヲ貸スト  
 アラン又人ノ爲ニ無賃ニシテ勞動シ若クハ其  
 自ラ造ル所ノ物品ヲ與フルトアラン然レ氏此  
 ハ全ク親愛ノ情ヨリ出ル者ナレハ經濟學ニ於  
 テ論スヘカラサルモノナリ通例人間ノ生營上  
 ハ彼此互ニ勤勞ヲ交易スルモノトス工人ハ財  
 主ニ向テ曰ハン余カ汝ノ財本ヲ借ラント欲ス

ルハ其助力ニ由テ更ニ許多ノ物品ヲ産出セン  
カ為メナリト財主答テ曰ハン汝ハ其産出物中  
ノ幾分ヲ余ニ與フルヤト其割合ハ財主ハ自ラ  
申出スカ若クハ工人之ヲ申出スニモセヨ畢竟財  
主タルモノ適當ノ利潤ヲ收メザレバ争テカ之  
ヲ貸與セン蓋シ財本ヲ借ラント欲スル者ハ多  
クハ近鄰ノ人ニ依頼スヘシ財主モ亦近鄰ノ人  
ニハ多分ハ之ヲ貸スノ理アレハナリ  
凡ソ金ヲ借ラントスルノ徒誤謬ノ思想ヨリ出  
テ、以爲ラク財主カ利潤ノ一部分ヲ請求スル

ハ其身分ニ取リ不相當ナリト思惟シテ之ヲ與  
フルヲ肯セサレハ財主ハ必ス其資本ヲ收藏  
シテ何人ニモ貸サバルヘシ中ニ就キ敏捷ノ財  
主ハ資本ヲ以テ躬ヲ工業ニ從事シテ利益ヲ收  
ムヘシ又某ハ忍テ儉約ヲ為スモ其功效ナキニ  
ヨリ寧ロ一時ノ快樂ヲ買フニ若カストテ無益  
ニ之ヲ消費スルナラン必竟前論ハ全ク想像論  
ニシテ凡ソ何人ヲ論セス利己主義ノ為ニ動カ  
サル、者ナレハ勞者カ財本ヲ得テ己ヲ利セン  
ト欲スル心思ノ切ナルハ猶財主カ其財本使用



ノ路ヲ索メント欲シテ之ニ致タトスルカコト  
 シ故ニ時トシテハ二者俱ニ協和セサレハ事ヲ  
 為スト能ハサルトアリ然レモ不善ナル法律ノ  
 如ク彼我ノ間ニ偏見アルカ為ニ其協和ヲシテ  
 困難ナラシムヘシ

○利子ノ價 總テ他ノ貨物ノ如ク財本モ亦需  
 要供給ノ法則ニ從フ夫レ財主ハ務メテ高利ヲ  
 得ント欲シ借主ハ成丈低利ニテ之ヲ借ラント  
 欲スルニヨリ其價ハ互ニ商議ノ上ニテ定ルヘ  
 シ故ニ財本寡少ナレハ其利子益貴ク財本多ク

レハ利子益賤カルヘシ又一方ヨリ之ヲ言ハハ  
 財本ノ需要益多クレバ利子益貴ク其需要愈寡  
 ケレバ利子ハ愈賤シキ者トス利子ノ價ノ變動  
 ハ恰モ權衡ニ比スヘシ例ヘハ供給ノ盤中ニ財  
 本ヲ加ヘヨ直ニ該盤ノ竿ハ下方ニ傾向スヘシ  
 然レモ需要ノ盤中ニ更ニ借者ヲ置クキハ該竿  
 ハ直ニ上昇スヘシ但彼此其震動ノ明示スル所  
 ハ融通スルヲ得ヘキ財本獨個ハ分量ニ非ス即  
 チ此分量ト需要トノ關係ヲ示スモノナリ商業  
 不景氣ノ時ニ當テ利子低下スルハ職ハラ此レ

之ニ因ルナリ夫レ利子ノ斯ク異常ニ低下スル  
 所以ハ財本富饒ナルニ由ルカ曰ク否ラス需要  
 甚タ寡キカ故ナリ  
 夫ノ利子ノ價ハ限ナク低下スヘシトノ論說ノ  
 架空ノ夢想タルコトハ前述ノ理ニ由テ明カナ  
 リ其實際上ニ就テ之ヲ徵スレハ斯ノ如キ說ト  
 ハ全ク反對ノ景況ニ出ツレハナリ要スルニ吾  
 人カ主トシテ望ム所ハ財本最モ多量ニシテ其  
 需要モ亦必ス甚タ多キニ在リ之ヲ申明スレハ  
 勤勞ノ用具即チ財本最モ多クシテ間斷ナク此用具

ヲ生産ニ使用セシムルニ在リ是レ一國經濟ノ  
 大眼目タル貨物ノ産出ヲ多カラシメ一夫一婦  
 ヲシテ亦能ク其所ヲ得セシメ以テ一國社會ノ  
 安寧幸福ヲ進メシムルノニ大要ナレハナリ畢  
 竟利子非常ニ貴キ時ハ為ニ物品ノ産生カヲ阻  
 碍シ又非常ニ賤シキハ財本ノ産出ヲ督促セ  
 サルナリ然レハ佛國ニテ平素行ハル、カ如キ  
 百付キ四分ト六分トノ間ニ在ル利息中等ノ價  
 ハ商業轉變ノ機其他國家有事ノ日ニ當リ之ヲ  
 定メテ國法ト爲ス一ハ容易ニ施シ難キトス

前回は示スカ如ク諸人の財本ヲ一處ニ聚合シテ事業ヲ起スキハ非常ノ利益ヲ博スルノ機会アルヘシ然レモ復タ非常ノ損失ヲ被ムルヲアルヘシ蓋シ結社ノ事業タル運轉其宜キヲ得ルキハ之ヨリ得ル所ノ利益ハ一割二割乃至五割若クハ其以上ニモ及ブトアルベシ又失敗スルキハ利益僅ニ二分或ハ絶無ニ屬スルトアルノミナラス其事業全ク不景氣ト為リ利益ハ勿論資本ヲ併セテ之ヲ失ヒ財主ハ元利俱ニ失フニ至ルトアルヘシ

資本ヲ貸ス人ハ斯ル巨大ノ損失ヲ受ルノ法ニ據ラスシテ別ニ利子ヲ得ルノ道アルヘシ其法タルヤ借入レテ設立セル事業ノ殆ト年々ノ平均利益ニ基ツキ計算スルカ若クハ世間普通ナル利子ノ相場ニ依ルカ兩者孰レニセヨ最初其利子ノ多寡ヲ約定シテ年々一定ノ金額ヲ收ルニ在リ此場合ニハ結合財本ニアラスレテ即チ定價財本ナリ例ヘハ年々收得スヘキ定額ヲ百ニ付六分ノ利子トセンカ然ラハ之ヲ借用シタル者ハ之ヲ使用シテ得ル所ノ利益何程多キ

モ此六分ヲ引去レハ殘額ハ全ク自己ノ有ニ歸  
スヘシ之ニ及シ不幸ニシテ其利益僅ニ四分ニ  
止ラハ財本中ヨリ二分ヲ引去リテ其不足ヲ補  
ヒ併セテ財主ニ拂ハサルヲ得ス果シテ然ラハ  
到底二分丈ハ損失ト為ルナリ此方法ニテハ其  
貸付タル資金ノ損失ニ至ル場合ハ業主大失敗  
ヲ致シテ利益ハ勿論自己所有ノ資本ト併セテ  
借用シタル資本ノ半額若クハ金額ニ至ルマテ  
無益ニ消滅セル時ニ在リ斯ル酌例ハ世間往  
々見ル所ナリ

又定價財本ハ結合財本ト一般ニ之ヲ貸出スニ  
方テ自ラ其事業ヲ擇ヒ且其約束ヲ結ハスンハ  
アルベカラズ例ヘハ之ヲ以テ着手セントスル  
事業確實ニシテ且其起業者富豪ナルカ若クハ  
其人誠實ニシテ信ヲ置クニ足ラハ市場一般ノ  
景況ヲ斟酌レ低利ヲ以テ多量ニ之ヲ貸與スヘ  
シ又其工事ノ性質惡キカ或ハ起業者富豪ナラ  
サルカ若クハ其人信スルニ足ラサルハ損失  
ノ恐アルヲ以テ敢テ之ニ貸與セサルヘシ若シ  
之ヲ貸與スルハ萬一元金ヲ損失スルモ預シ

之ヲ償フニ足ル可キ高利ヲ請求スヘシ是故  
 何國ニ於テモ危險ノ事業ニ入ルハ財本ハ一  
 般ニ高利ヲ拂ヒ堅固ナル事業ニハ其國ニ於テ  
 普通行ハルハ利子中等ノ價ヨリ稍低下セル利  
 子ヲ以テスベシ  
 佛國政府ニ於テハ一千八百〇七年ノ令ヲ以テ  
 人民通例貸借利子ノ極高點ヲ五分トシ商用上  
 ノ貸借利子ヲ六分ト定メタリ然レモ此法令ハ  
 夫ノ物價ヲ限制セント欲シタル諸法令ト一般  
 ニ忽チ其實力ヲ失ヒ却テ煩雜ヲ極ムルニ至レ

リ且夫レ斯ル法令ノ行ハレサル國ニ於テ普  
 通利子ノ價ハ却テ貴カラサルノミナラス財本  
 ノ流通最モ容易ナルカ故ニ却テ善ク勤勞ノ助  
 ヲ為スナリ佛國立銀行ハ一千八百五十七年ノ  
 法令ヲ以テ前ノ利子制限法ヲ解レタリ  
 結合財本ト定價財本トヲ問ハス凡ソ財本ヲ貸  
 借スルノ方法種々アリ即チ尋常ノ通貨幣土地  
 若クハ建物ノ如キ不動産商貨品銀行ノ帳簿上  
 ニ明示セル信憑商家ノ手形ヲ用ニル等技擧ニ  
 違アラサルナリ是等ハ凡テ其種類ニ由テ利子

ノ多寡ト契約上トニ影響ヲ及ホス者ナリ蓋シ  
 不動産タル財本ノ利子ヲ名テ租銀ト云フ又其  
 不動産タルヤ年月ヲ經ルニ從テ破損スルカ如  
 キ建築物タラハ其租銀中ニ於テ通例ノ利子外  
 ニ破損ヲ修補スヘキ部分ヲモ含有セサルヘカ  
 ラス抑夫ノ善ク肥料ヲ如ヘテ耕ヤス時ハ毫モ  
 疲瘠セサル土地若クハ金銀貨幣ノ如キ自然磨  
 減スルモ小部分ノ補助ヲ加フレハ最初貸與シ  
 タル多寡ト等シキ價值ヲ以テ回收スルヲ得ヘ  
 キ者ト同一視スヘカラサルナリ

○起業者ノ利益 凡ソ産出物ハ財主ト起業者  
 ト勤勞者トノ三者ニ分ツヘキナリ而シテ其起  
 業者ノ利益ハ其産出物ヲ販賣シタル代銀中ヨ  
 リ備工ハ五銀ト資本并ニ其利子及ヒ自己生計  
 ハ資トヲ引去リテ其餘ハ所ハ者是ナリ之ヲ詳  
 解スレバ此等ノ諸費ハ其入レタル財本ノ多寡  
 ニ由テ計算スルモノトス凡ソ起業者ハ左ニ述  
 ル三項ノ中孰レカ一ニ歸スベシ

一 本年製造シタル貨物ヲ賣捌キテ之ヨリ諸  
 費ヲ引去リ正金若クハ商貨品若クハ製造料ナ

リ其残ル所ノ物前年所有セシ所ノ數ヨリ多ケ  
レハ其部分ハ即チ利益ナリ善ク此貨物ヲ販賣  
シ而シテ夫ノ世間ニ往々之レ有ルカ如ク己カ  
店舗ノ繁昌ニ誇リテ知ラス識ラス浪費ヲ爲ス  
カ如キナカリセハ其得ル所全ク利益ト爲ル  
ヘシ

二 製造品ヲ賣捌キタル代銀中ヨリ自己生計  
ノ資ニ至ルマテ全ク之ヲ引去リ餘ル所正シク  
前年之ニ費マ所ト均シケレハ業主ハ得失出入  
チシ蓋シ不景氣ノ年度ヲ經過シタリト雖モ幸

ニ失敗ニ至ラスト自ラ祝シテ止シノ三然レ氏  
其實多クノ損失ヲ受ケタリト云フヘシ何トナ  
レハ老後ノ豫備ヲ爲スヘキ壯年活潑ノ時限ナ  
ル一年ヲ空シク經過シタレハナリ

三 又前ノ如ク諸費ヲ引去リテ餘ル所前年ヨ  
リ寡キキハ全ク損害ヲ致セル年度ナリ業主タ  
ルモノ其家業ノ衰頹ニ傾向シタルヲ見レハ速  
ニ其方向ヲ轉シテ失敗ノ原因ヲ探究シ其損失  
全ク我カ事業ニ練熟セサルノ致ス所ナルヲ覺  
悟セハ須ラク之ヲ忍耐スヘシ若シ其管理ノ方

法其所ヲ得サルニ出ルヲ知ラハ速ニ其弊ヲ矯ムヘシ否ラスシテ時勢變遷ノ然ラシムル所之ヲ改正スルモ到底無益ノ事業ト認ムレハ斷然之ヲ廢止スルニ若カサルナリ

○勞銀。バスタア氏ハ左ノ例ヲ擧テ勞銀ノ法則ト定價ヲ以テ勞者ヲ使役スルトヨリ生スル所ノ利益ヲ説明シタリ

一老漁父アリ一日同業ノ某ニ謂テ曰ク汝ハ漁業ヲ為スニ四肢ノ外一モ器具ヲ有セス何ソ其レ危險ノ甚キヤ汝ハ何ヲ以テ今夕ノ食

料ニ充ルヤ安ンゾ空腹ヲ以テ能ク勞動スルヲ得ンヤ宜ク今ヨリ余カ家ニ來リ余ト俱ニ暮ラスヘシ然シテ余カ所持ノ小舟網羅及ヒ其他ノ漁具ヲ以テ共ニ漁獵ヲ爲ヒハ汝ト俱ニ獲ル所ノ魚ノ一部分ヲ以テ汝ニ分ツヘシ其多寡ハ何程ニセヨ汝カ獨リ赤手ニテ獲ル所ノモノヨリハ必ス多カルヘシ余ニ於テモ亦汝ト共ニ働ク所ハ割合ニ多量ノ魚ヲ得テ余ノ股分ト為ル部分ハ汝ニ與フル者ヨリ更ニ多カルヘシ故ニ汝ノ利益トモ爲リ又余



ノ利益トモ爲ルナリ之ヲ要スルニ汝ノ勤勞  
ト余ノ財本トヲ協同セハ各自孤立ニテ勞動  
スルトキニ比スレハ必ス餘分ノ魚ヲ得ヘシ  
但シ協同スルトキハ余ト汝トノ利益アル徵  
候コ、ニ見ハル即チ此餘分ノ魚ナリト初メ  
斯ク二人協同シテ漁業ヲ營ミシカ其後此少  
壯ノ漁人ハ以為ヘラク其受クヘキ部分ヲ每  
日若干ト定ムルノ利益ナルニ如カスト遂ニ  
一日所獲ノ多寡ニ關セス一定ノ魚量ヲ得ル  
トニ約束セリ是ニ於テ彼我協同ノ利益ヲ損

セス尚相共ニ勞動シテ唯其不定ノ利益ヲ變  
シテ一定ノ勞銀トハ爲セシナリ

前例ハ勞銀ノ因テ起ル所ヲ説明セル者ナリシ  
カ斯、ル協同ノ種類ニ於テ業主ト作工トヲ區  
別セシムル者ハ何ソヤ曰ク財本是レナリ業主  
ハ即チ自ラ危險ト損失トヲ冒シテ從來ノ家産  
カ若クハ他人ヨリ借タル財本ヲ以テ工業ニ從  
事シタル勞者ナリ作工ハ他人ノ財本ニ就テ某  
ノ事業ヲ成就センカ為勞銀ト名ケタル若干ノ  
報酬ヲ受ル勞者ナリ即チ業主ハ勤勞ト財本ト

ニ由リ産出シタル貨物ヲ賣ル者ナリ傭工ハ其  
勤勞ヲ賣ル者ナリ

勞銀ノ物價ニ比較スレハ高低ノ甚タ寡キハ百  
工製造家ノ躬ヲ親シク實驗シテ知ル所ナリ蓋  
シ製造家ハ今日利益ヲ得ルモ明日ハ復タ損失  
ヲ受ルコトアルヘシ即今利ヲ見テ販賣シクル物  
品ノ傍ニハ既ニ相場ノ下落カ若クハ流行ノ變  
換ニ由テ若干ノ損失ヲ爲サレハ販賣シ難キ  
者アラシ然レモ此變動ニ應シテ監督人ノ月給  
及ヒ傭工ノ勞銀ヲ昇降スルコト能ハサルベシ勞

銀ハ斯ク高低得失兩極ノ中間ニ立ツカ故ニ財  
本ノ協同者タラスレテ一種ノ保險銀ト謂フモ  
可ナリ何トナレハ共ニ製出スル所ノ物品ハ假  
令ヒ無價ト為ルコトアルモ腐敗ヲ致スモ全ク損  
ケサルモ相場ノ低下セルモ商賣社會ニ變動ア  
ルモ流行ニ變換アルモ決シテ其得失ニ相關セ  
ズ定例ノ收納ヲ得レハナリ是レ畢竟非常ノ利  
益ヲ得ルノ機會ニ代フルニ一定ノ所得ヲ以テ  
シタルナリ

○勞銀ノ相場 勞銀ハ商貨品ノ如キ甚シキ變

動アラサレ亦一定不易ノ者ニアラズ又現ニ其相場ノ定マル者ニアラス蓋シ之ヲ定メント欲スルハ稍愚ニ近カラン凡ソ他ハ有價物ト一般ニ需要ト供給ハ法則ニ従フ者ナリ今勞銀ノ因テ定マル大法ヲ掲テ讀者ニ示ス左ノ如シ

一 凡ソ財本ノ豊富ナル國ニ於テ勞銀ハ必ス貴カルヘシ實ニ勞銀資本ト為ル者ハ流通財本ナルカ故ニ勞銀ヲ受テ生活セル人員ハ前ト等シクシテ唯此資本ノニ愈増加スレハ各自ノ受クヘキ部分ハ愈多カラサルヲ得ズ例ヘハ諸種

ノ財本甚タ乏シキ僻陬ニテハ巴里府ニ於テ一日間ニ四十錢餘ノ勞銀ヲ拂フヘキ工夫ヲ傭フニ一日間ニ二十錢ヲ以テスルカ如シ

二 業主競ツテ傭工ヲ需ムレハ賃銀ハ益貴シ蓋シ此頃多クハ第一頃ニ干與スベシ何トナレハ凡ソ何地ヲ問ハス財本多ケレハ隨テ起業者ノ員數亦多ケレハナリ之ヲ正言スレハ勤勞ノ需要甚タ多カルヘシ然レモ財本豊富ナル地方ニ在テハ自然諸方ヨリ傭工輻湊スベシ故ニ勞銀ノ法則ヲ會心スルニハ先ツ財本ノ分量即チ

需要ヲ查明シテ而シテ後供給ヲ查明セサルヘ  
カラス

余ハ此重複ノ觀察ヨリ左ノ如キ重複ノ規則ヲ  
裁定ス

傭工ノ人數ニ増減無ク唯財本ノ全額ト起業  
者ノ負數トノミ増加セハ必ス勞銀中等價工  
得ル所ノ勞銀ヲ平均シテヲ騰貴セシムヘシ  
其中ヲ取りタル者ヲ云フ  
之ニ反シテ此二者減少スレハ必ス之ヲ低下  
セシムヘシ  
又財本ノ額ト起業者ノ負數ニ増減ナクシテ

唯傭工ノ負數ノミ増加スレハ必ス勞銀中等  
價ヲ低下セシムヘシ之ニ反シ傭工減少スレ  
ハ必ス之ヲ騰貴スヘシ

三 技能若クハ學術ハ如キ特別ハ才能ヲ要ス  
ル工業ニ於テハ勞銀自ラ貴シ此說ニ關シテハ  
左ノ二項ヲ考究スルヲ要ス

第一 凡ソ何國何地ニ至ルモ勞銀ニ中等價ナ  
キナリ一起業中ニ於テ數目ノ勞銀ヲ有ス  
銀行又ハ其他數人ノ財本ヲ合シテ設立シタル  
某事業ヲ擔任スル頭取ハ勞銀ノ如キハ自然甚

夕貴カルヘシ何トナレハ一社ノ長タル人才ハ  
容易ニ得難キカ故ニ其勞銀ハ即チ其併有セル  
種々ノ才能ニ酬フル者ナレハナリ  
商家及ヒ製造家ハ手代等ノ給料ハ其天資ノ才  
力又ハ多年修業シタル能力及ヒ其事務ノ熟練  
等ニ酬フル者ナリ上ハ此輩及ヒ一大銀行ノ金  
櫃保管人ヨリ下ハ寫字生ニ至ルマテ各其人  
才ニ隨テ給料ヲ與フルカ故ニ其數目甚タ多シ蓋  
シ金櫃保管人ノ如キハ其人ト爲リ方正律義ノ  
名聞ト其重任トニ酬フル者ナレハ其給料ハ最

モ多カラサルヲ得ス

職工ノ勞銀モ亦之ヲ數目ニ區別ス即チ工場長  
工長或ハ他ノ工事監督ノ如キハ多少商家手代  
ノ資格ヲ有スル者ナレハ之ト一般ニ往々月棒  
ニテ其勞銀ヲ支給スルコトアリ日傭職工ノ勞銀  
ハ每一週日若クハ毎二週日ニ支給スルヲ常例  
トスレバ其割合ハ工場ニ出タル日數ト時間ト  
ニ比例シテ起算スルモノトス又定時勞銀アリ  
此ハ前ノ如ク時々ニ給スルアリ又ハ依託シタ  
ル工事ヲ竣ヘタル後之ヲ給スルアリ之ヲ受員

仕事ト云フ其方法物品ノ數ニ由ルアリ又分量ニ由ルアリ

前ニ揭示シタル條目ハ製造局内ノ勞銀ナレハ尚左ノ數目ヲ加ヘサルヘカラス

僕婢ノ給料諸官員ノ給料學士、代言人、法師、音樂師等ノ如キ藝業ニ從事スル徒ノ報金即チ是レナリ此輩ハ固ヨリ財本ト勤勞トヲ以テ實物ヲ造出スルニアラス故ニ其給料ハ他人ノ為ニ一身ヲ煩ハシタル功勞ニ酬フル者ナリ

上ハ鐵道會社ノ頭取及ヒ有名ノ代言師等ヨリ

下ハ筋骨ヲ勞スル傭工ニ至ルマテ勞銀等級ノ多キ實ニ測リ知ルヘカラス蓋シ吾人ハ藝業益精シク才力益敏ニ學術益深ケレハ愈以テ我給料ノ等級ヲ進ムルヲ得ベシ

然リトイフ凡ソ人物ノ價値ヲ測ルニハ必ス其人ノ得ル所ノ利益ノ多寡ニ由ルベシト謂フニアラス凡ソ物ノ方法ヲ立ルハ容易ナレモ其成績ハ容易ニ之ニ符合セザルモノナリ抑經濟上ノ關係ニ付キ凡ソ人得ル所ノ勞銀ハ前ニ述タル階梯ノ間ニ在リト云フニ過キス蓋シ一世

ノ英傑ハ其國ノ將ニ覆亡セントスルヲ救ヒナ  
 カラ貧窶困阨シ以テ一世ヲ畢フルモノアリ又  
 名利ヲ博セスシテ聲名一世ヲ震爍シ人仰テ泰  
 斗トナスモノアリウインセント、デ、ポールノ如キ  
 ハ善道ヲ世上ニ宣布セント欲シ激勵奮發終身  
 孜々トシテ其功德ヲ施シ之カ爲ノ特別ノ俸祿  
 ヲ受スシテ慈仁ノ模範ヲ萬世無窮ニ傳ヘタリ  
 二者共ニ其報酬トシテハ當代ハ勿論後世ニ至  
 ルマテ千載不朽ノ名譽ヲ博セリ是ニ由テ之ヲ  
 觀レハ凡ソ人ハ其功勞ニ從テ夫々ノ報酬ヲ得

ルモノナリ但經濟學ハ世人ニ功用アル有形物  
 ヲ造ルノ旨ニ基ツクカ故ニ其目的トスル所ハ  
 世人ノ之ヲ欲望シ且購求スル所ノ物品ヲ産出  
 シ隨テ其産出者ヲシテ順次ニ其需要ノ物件ヲ  
 購入スル資ヲ得セシメントスルニ在リ故ニ其  
 産出者ノ貨殖進歩如何ヲ權ル最良ノ指針ハ其  
 物品ヲ消費スル徒ガ年々之ヲ購求スル金額ノ  
 多寡ニ由ルニ如カサルナリ  
 第二。前ニ財本ト傭工トノ關係ヲ論スルニ當  
 テ既ニ言フカ如ク勞銀中等價ニハ一定ノ價額

アルニ非ス今假リニ財本ト傭工トニ増減無キ  
モノトセハ百工製造上ニ遍ネク學術ノ功用ヲ  
施及シ而シテ産出者モ各自學術ヲ應用スルニ  
隨ヒ益此價額ヲ騰貴スベシ爰ニ其理ヲ明解セ  
シタルニハ須ラク日々工人ニ支給スル所ノ賃  
錢ノ多寡ニ由ラスシテ寧ロ其産出品ニ就テ論  
スルニ如カス何トナレハ此多寡ハ時々變換シ  
テ定規ト爲シ難ケレバナリ例ヘハ勞銀中等ノ  
價ハ殊更ニ騰貴セサルモ銀貨ノ低下ニ由リ去  
年ハ六十錢ノ勞銀タリシモ今年ハ一圓二十錢

ヲ受ルヲアラン然ルニ去年ハ一日ノ食料ニ四  
十錢ヲ以テ足りシカ今日ハ壹圓ヲ要セシ又家  
賃ノ如キモ昨年ハ二十圓タリシモ今年ハ六十  
圓ヲ出スナラン然ラハ所得ノ金額ハ多ケレト  
モ其實ハ去年ヨリ寡キノ割合ナリ是レ勞銀ノ  
低昂ヲ計算スルニハ其製造品ニ就テ為スヘシ  
ト謂フ所以ナリ例ヘハ茲ニ麻布ノ製造所アリ  
去年ハ毎月六十卷ノ反物ヲ製出シタリシカ今  
年ハ之ニ學術上ノ新工夫ヲ施シタルニ由リ同  
一ノ財本ト同一ノ人カトヲ以テ一百卷ノ麻布



ヲ製出スルニ至レリ又水利ヲ量リテ巧ニ灌溉  
ヲ施セハ從前六頭ノ牛ヲ牧セシ處ニテ今八十  
頭ヲ牧スルヲ得ヘシ機杼手ハ昨日麻布ノ三  
尺ヲ織リシカ今日ハ五尺ヲ織出スヘシ而シテ  
之ト貿易スル農夫ハ昨日マテ牛酪牛乳若クハ  
牛肉ノ三斤ヲ以テセシガ今日ハ五斤ヲ交付ス  
ヘシ彼ト此ト價值ノ關係ハ固ヨリ變易セサレ  
氏其實ハ一日ノ勤勞ヲ以テ産出スヘキ物品ノ  
額ヲ増加シタル故ニシテ乃チ更ニ勞銀ノ騰貴  
シタルナリ

吾人カ他人ヲ傭役スルハ即チ貨物ヲ買フト一  
般ニ其勤勞ヲ買フナリ故ニ勤勞ト貨物ノ二者  
ガ需要ト供給ノ法則ニ從フノ方法ニハ許多類  
似スル所アリ然レ氏此二者ノ間ニハ自ラ重要  
ノ別アリ夫レ吾人カ物ヲ購フニハ自然之ヲ造  
出スル費用ヲ以テスベシ實ニ賣者ハ各競テ之  
ヲ賣ント欲スルカ故ニ賣價ヲシテ自ラ其産出  
費ニ近ツカシムレハナリ人ノ勤勞モ亦其生出  
シタル功效ニ比シキ報酬ヲ得ベキモノトス都  
會ノ職工ト地方ノ農僕トハ自ラ勞銀ヲ異ニス

蓋シ其生出スル所ノ功效異ナレハナリ鐵道會社ノ社長ハ其日用必需ヲ云ハハ下等書記ト一般ノ衣食住ヲ以テ足レリトスベシ然レモ其人オヲ以テ幾層ノ價アルヲ知ルカ故ニ幾多ノ給料ヲ要求スルナリ今此觀察ノ結果ヲシテ極處ニ至ルマテ追及スルヲ要セス何トナレハ産出品ノ賣買上ニ於ルト一般ニ産出者モ亦幾ハクカ競争上ノ差響ヲ受レハナリ然レモ勞銀ノ此差異ハ産出者ノ生計ノ安全ヲ増スニ從ヒ其産出物ノ低價ニ至ル所以ヲ説明スルニ足ルノ三

勤勞一日ノ價值ノ最上點ヲ定ムルコトハ固ヨリ成ル可ラサル所ナレモ人アリ其最下點ノ如何ヲ請ヒ問フコアラハ余ハ理論上ニ據リテ斯ク之ニ答ヘシノミ曰ク物價ノ最下點ハ其産出費ニ在ルト一般ニ作工勞銀ノ最下點ハ生命ト筋カトヲ保續スルニ必要ナル多寡是ナリ然レモ凡ソ何事モ實地ト理論トハ必ス常ニ一致セザルモノニシテ飢饉又ハ商況不景氣ハ時節等ニ會シテ夫ノ貨物ヲシテ産出費ヨリ低下ニ販賣スルコアルト一般ニ此時ニハ百工表類シテ勞

銀ハ低下セル以テ生計ヲ資ルニ足ラサルカ如キニ至ルトアリ是ニ於テ最下點ト定メタル答辭モ其理歸着スル所ナク全ク曖昧ニシテ意味ナキノ言タルヲ免レス何トナレハ斯ク定メタル分量ハ國ト時代トノ別アルトニ隨テ非常ニ異ナルノミナラス同國同時代ニ於ルモ都會ト村落トニ於ルモ此職業ト彼職業トニ於ルモ自ラ異ナルヲアレハナリ

○勞銀ノ貯蓄 工人ノ生命ト筋カトヲ保續スルニ足レルヲ以テ勞銀ノ最下點ト定メタレ氏

然レ氏此極點ハ最上點ヲ定ルヨリ尚一層ノ難キニ似タリ豈唯今年今日生活スルニ足レルヲ以テ最下點ト云フヲ得ンヤ老後并疾病事故ノ豫備モ亦其中ニ含蓄セサル可ラス之ヲ要スルニ斯ル勞銀ヲ受ケ唯目前ノ小利ヲ得ルヲ喜ビ深慮先見ナキ者ハ凡ソ工職人一般ノ通病ナリ例ハハ爰ニ一人ノ作エアリ今月今日作業ニ従事シ自己ト家族ヲ併セ衣食住共ニ其所ヲ得テ特ニ負債ヲモ起サ、リキ豈之ヲ以テ充分ニ生計ヲ達シタリト謂フ可シヤ何トナレハ疾病

事故ニ由テ休業スルコトアラン最後ニハ老衰ノ日モ亦至ラントスレハナリ業主モ亦之ト一般ノ事故ニ會フヘケレ氏多少ノ時日ハ其財本ニ由テ生計ヲ達スルヲ得ベシ概シテ業主ハ他日其財本ノ收入ヲ以テ生活スルヲ要スルコトハ平素覺悟スル所ナリ而ルニ傭工ハ財本所有ナク亦別ニ收入モナキ故ニ其勞銀ハ朝夕ノ資ニ供フルノミナラス尚將來ノ豫備ヲモ含蓄セサルベカラス即チ第一一家妻孥ヲ養ヒ家材什器ヲ整ヒ第二職業間暇ハ際及ヒ疾病事故ニ備ヘ

第三夫妻老後ノ豫備ニ充サルベカラズ蓋シ勞銀ヲ受タル日ニ當リ空シク酒食ニ浪費スルコトナク以テ日々ノ需用ヲ達スルハ尋常工人ノ為シ得ヘキコトナレ氏其餘ノ豫備ヲ為スニ至テハ必シク智慮先見アル者ニ非サレハ容易ニ為シ難カルベシ  
○勞銀ノ批評 世人往々勞銀ヲ駁撃シテ曰ク勞銀ハ財本ヲ以テ人ノ勤勞ヲ欺罔スル不正ノ一策ナリト是レ寔ニ怪ムヘキノ邪説ナレ氏今日尚某有識者等ノ稱道スル所ナリ斯ナル邪説

ヲ世上ニ傳播スルキハ有財家ニ向テ無財者ノ嫉妬怨惡心ヲ起サシムルニ至ル其害實ニ測リ知ルヘカラサルナリ  
請フ其邪說タル所以ヲ説明セン夫レ勞銀ハ財本ヲ以テ勤勞ヲ欺罔スルニアラス但勤勞ト財本トノ一種ハ結合物タリ既ニ論スルカ如ク勤勞ナケレハ財本ニ功用ナク又財本ナケレハ勤勞ニ功用ナシ二者互ニ相待チ其功ヲ奏スル者ナルカ故ニ財本愈々豊富ナレハ勤勞愈々活潑ニシテ其報酬モ亦愈々多カルヘシ

勞銀ハ人ノ勤勞ヲ欺罔セサルコトハ勿論尚人ヲ逼勒シテ奴隸ト為スニ非ス即チ人ノ勞ヲ要スル者ト互ニ自由ハ約束ニ出ルナリ佛國ニ於テ一千八百〇九年ニ本國內奴隸ヲ禁シ同四十八年ニ所屬地ノ奴隸ヲ禁スルノ令ト共ニ人權ノ自由ヲ布告シタリ爾來佛人カ奴隸ト一般ニ使役シ得ル者ハ唯水カ及ヒ蒸氣カノ如キ實物ノミナリ蓋シ今日人ノ勤勞ハ市場ニ於テ價ノ高低ヲ爭フ賣買物タリ傭工ガ傭主ニ使役セララルト云フハ恰モ猶業主カ取引銀行ノ爲ニ勞シ

小賣商人カ問屋商ノ為ニ勞シ物品ノ購求者カ  
商賈ノ爲ニ勞スルト謂フカ如シバスチア氏カ  
云フ如ク傭主ノ地位ハ傭工ノ地位ニ比スレハ  
勿論吾人ノ歎羨スル所ナリ此理實ニ然ラサル  
ヲ得ス何トナレハ財本ハ之ヲ所有スル者ノ生  
産カト收入ヲ増加スルヲ得ヘキ産業ナレ氏是  
レ全ク其人ノ節減儉約ノ致ス所ニシテ務メテ  
之ヲ行ヒタル者ノ幸福ヲ増サシムルカ為ノ酬  
報ナレハナリ又傭工モ勉メテ節儉ヲ行ヒ自ラ  
財主タルノ地位ニ進マサルヘカラス

財本ノ所有者ハ必ス常ニ有益ニ用フルノ方便  
ヲ得サルヘシ之ヲ他人ニ貸シ又自ラ勞銀ニ用  
ユヘシ即チ手代書記僕婢及ヒ工長等多數ノ人  
員ハ皆此勞銀ニ因リテ活ヲ為ス者ナリ然ラハ  
勞銀即チ人ノ勤勞ヲ借ルトハ不正ノトタルヤ  
將タ人權ノ自由ヲ妨害スル者タルヤ吾決シテ  
其然ラサルヲ知ル

人事百般ノ事物ト一般ニ勞銀ニモ亦不便ノ事  
ナキニ非ス其最モ甚シキ者ハ之カ爲ニ勞動セ  
ル工人ニ在テ責任ハ意薄キト躬ヲ損益ニ干渉

スル、下寡キトニ在リ、蓋シ其工夫ハ懶惰ニシテ、其委託サレタル物料ヲ濫用スヘシ、其ノ書記ハ規則時限内業主ノ家ニ在テ、目前ノ事業ヲ辨スレハ己カ職務ヲ悉セリト思惟シテ、毫モ他ニ心ヲ用ヘサルヘシ、斯ク怠惰且不注意ナルモ、其日給若クハ月給ニハ毫モ差響ヲ及ホサ、レハナリ、此等ノ弊害ヲ矯ムルカ爲ニ、何職業又其何製作品タルトヲ問ハス、請負仕事ノ法ヲ設ケタリ、是レ竣功シタル事業ノ多寡ニ從テ、勞銀ヲ與フル

ノ法ニシテ、凡ソ報酬ヲ定ムルニ、此法ヲ除クノ外、他ニ此ノ如キ公平ノ方便ナシトイヘ、凡事業ニ由テハ精密ニ其多寡ヲ計算スルヲ能ハサル者アリ、蓋シ此方法ヲ用フル時ハ、工人速成ヲ欲シテ、粗忽ニ之ヲ爲スノ憂アリ、故ニ須ラク監督ヲ付シテ、嚴重ニ之ヲ點檢セサルヘカラス、又別ニ此弊ヲ矯ルノ一方法アリ、即チ共ニ勞動スル者ノ中ニ、起業總純益ノ内幾分ヲ配當スルノ法、是ナリ、此別格ノ報酬法ハ、今日往々上等ノ手代及ヒ、工長ニ施ス所ナレ、凡各等ノ手代及ヒ

作工ニ施スモ敢テ障碍ナキナリ既ニ業主ノ之ヲ實行シ果シテ其功驗ヲ得ル者寡カラズ其製造家ハ新年一日又ハ會計時限ニ際シ別段功勞アル仕役人ニハ褒賞トシテ多少ノ報酬ヲ附與スルコトアレド此ハ定規ナク且自ラ偏愛ニ陥ルノ弊アリ故ニ寧ロ此報酬法ヲ取ランヨリモ純益配當法ヲ取ルノ公平ナルニ如カス此法ニ據レハ工業純益中ハ幾分ヲシテ各協カ者ハ一年間ニ受領シタル勞銀ハ多寡ニ比例シテ配賦スルコト以テ各自毫モ偏頗ノ疑心ヲ懷クコトナク各

其隸屬スル所ノ業主ノ利益ヲ計ルコト益多ケレバ自己ノ利益ト為ル部分モ亦益多キヲ知ルカ故ニ其勉強カヲ鼓舞振作スルハ自然ノ勢ニシテ實ニ一舉兩全ノ策ト云フヘキナリ讀者苟モ此報酬法ヲ以テ一種ハ商業會社ヲ組織スル者ト誤認スルコト勿レ夫レ業主ハ單獨起業主ナリ而シテ之ニ使役セル工人等ハ其利益ノ一部分ヲ受ルモ毫モ業主ト損失ヲ共ニセス其勞銀ハ則チ製造費中ニ入ル者ニシテ損失ニ關セス始ヨリ通例ノ相場ヲ以テ申受クベシ故ニ



其年々ノ配當金ハ唯其附添物タルニ外ナラス  
然レ其業主ハ巧ニ傭人ヲ使役セハ此報酬ハ最  
モ有効ノ獎勵ト為リ隨テ物品ノ產出高ヲ增加  
シ主從共ニ利益ヲ收ムルノミナラス自然勞銀  
ヲ節省スルノ意ヲ懷カシメテ工人ニ向テ僱ヨ  
リ喋々ト忠告スルヲ要セサルベシ  
○職工協同會 蓋シ職工協同會ハ工人等勞銀  
ヲ受テ生活セルヲ避ント欲スルノ意ヨリ起ル  
者ナリ

抑此協同法ハ今日新ニ工夫シタル思考ニ非ス

前ニ佛國ニ於テセントシモン及ヒフリーリル  
氏ノ門弟輩頻ニ職工協同ノ利益ヲ論說宣布セ  
シカ其主義ハ人ノ私有物ヲ廢却スルニアリテ  
到底社會ノ基礎ヲ顛覆スルニ原ツクカ故ニ毫  
モ結果ヲ奏セスシテ止ミ又一千八百三十年ノ  
頃ヨリ種々ノ協同結社起リシカ其經濟ノ主義  
ヲ誤解シタルト政事上ノ大變動トニ由テ多ク  
ハ瓦解スル所ト為レリ  
然レ其社會ノ能ク其效ヲ奏シタル一例ハ一  
千八百四十年ノ頃英國ニ於テ貧窮ナル十二名

ノ織工會同結社シタル者は是ナリ之ヲロチデル  
 ピオニルス社ト云フ此社ハ二十年間協同經營  
 スルノ後終ニ一百万圓餘ノ資本ヲ有セル富有  
 ノ一社ヲ設立スルニ至レリ日耳曼ニ於テモ亦  
 漸ク此説ヲ汎布シテ遂ニ殆ト一千五百ノ小社  
 ヲ創立スルニ至レリ

畢竟協同社ハ財本ハ集合即チ財本ト職工ト結  
 合スル者ニシテ其主義ハ特種ノ性質ヲ有タサ  
 ルモノ、如シ

然ルニ此結社ハ許多ノ財本ヲ聚合シテ其工業

ヲ起セル結社トハ全ク特別ノ成績ヲ生セリ

此結社ハ敢テ大事業ヲ計畫セントスルノ旨意

ニアラス之ヲ要スルニ其主眼ハ左ノ三項ニ基

ツクナリ

共益社 此法ハ社員各自ニ必許ノ節儉ヲ為シ

テ餘ス所ノ貨幣ヲ一處ニ聚メテ貯蓄センコトヲ

契約スル者ニシテ宛モ一大貯金櫃ヲ設置スル

ニ異ナラス故ニ社員ヲ獎勵シテ必ス毎月若干

ノ貯金ヲ會社ニ納レシメ而シテ社員タル者ハ

社金ヲ借ント欲スル時ハ其貯金ニ關セス一人

若クハ多數社員ノ保證スルアレハ依托金ノ二  
 倍乃至三倍ヲ貸給スルノ定約ナリ  
 共給社 此レ日用必需ノ物品ヲ社員ニ販賣ス  
 ルノ法ニシテ其利益ハ問屋商ニ就テ一手ニ仕  
 入タルト同價ニシテ品質モ亦良好ナルニ在リ  
 殖産社 此レ協力節儉シテ即チ財本ヲ造リ自  
 テ一工業ヲ起スノ方法ナリ各社員少許ツ、漸  
 ヲ以テ貯蓄スルヲ目的ト為ス  
 此三方法ノ結社中殊ニ功用ノ著明ナル者ハ第  
 一方法ナリ此レ何レノ時代ニ於ルモ又何レノ

國土ニ於ルモ行ハレサルヲ無ルヘシ蓋シ節儉  
 ハ人間社會進歩ハ機軸ナリ社會ヲ喚起シテ其  
 進歩ヲ督促スル者ハ節儉ヨリ善キハナシ凡ソ  
 工職人タルヤ概シテ遠キ慮ナケレバ濟世ノ君  
 子ハ宜シク其弊ヲ救フニ注意シテ其品位ヲ進  
 マシムルノ方略ヲ運ラザルヘカラス吾人カ  
 工職人ニ向テ切ニ説諭スルヲ要スルモノハ能  
 ク其資本ヲ保有シテ依托其所ヲ得且漫ニ負債  
 ヲ起サミルノ一事ニ在リ然ラサレハ當ニ世人  
 ノ信用ヲ失フノミナラス尚節儉ノ心思ヲモ併

セテ之ヲ傷ナフニ至ル猛省セザルベケンヤ  
 第二方法ハ一方ニ於テ成功アレ氏一方ヨリ瓦  
 解ヲ招クノ弊アリ元來此結社ハ頗ル有益ノ法  
 ナレ氏之ヲ實行スルニ當テ最モ困難ヲ極ムル  
 者アリ益シ人烟稠密ナル大都會ニ於テハ此會  
 社員ハ通常諸方ニ散居スヘシ而シテ小賣商人  
 タル者ハ眞ニ損失ヲモ顧ミス漫ニ此社ト競争  
 シテ廉價ニ物品ヲ賣捌クヘシ果シテ然ラハ節  
 儉家ハ終日工場ニ在テ疲勞スルノ後ハ寧口共  
 給社ニ馳セテ購求スルヨリモ必ス近鄰ノ八百

屋若クハ前側ノ麵包屋ニ向テ需用ヲ辨スヘキ  
 ハ自然ノ勢ナリ加之此等小賣商ノ中ニ在リ若  
 シ差支ル片ハ我共給社ニ行テハ厚顔モテ為ス  
 能ハサルカ如キ賭買ヲ為スヲ得ヘシ畢竟會  
 社モ亦能ク其物品ヲ仕入レ又能ク之ヲ處分ス  
 ルヲ得ヘキ管理人ヲ得ルニ非レハ社中ニ向テ  
 常ニ良質ノ物品ヲ給與スルヲ能ハサルナリ抑  
 吾人ハ生レナカラニシテ賈人タルヲ能ハス凡  
 ソ何業ニ關セス多年ノ修業ヲ積テ而シテ後之  
 ヲ能スヘシ故ニ能ク其事業ニ熟練シタル人ハ

多量ノ給料ヲ與ヘサレハ之ニ使役セス又之ヲ心得サルノ徒ヲシテ管理人タラシメハ會社ノ資本ヲ失フノ恐アルベケレバナリ

第三法ハ其目的トスル所結局工人ヲシテ業主ハ束縛ヲ脱シテ勞銀ヲ廢スルハ旨趣ナルカ故ニ協同者ノ最モ高尚ナル考案ニ出ルナリ

然レモ勤勞ニ酬フルニ勞銀ヲ以テスルコトハ授受者共ニ最モ便利ノ法ナルカ故ニ到底廢止スルニ至ラサルヘシ余故ニ茲ニ附言ス曰ク職工協同ハ何等ノ工業ヲ問ハス必ス勞銀ヲ廢スル

不能ハサルベシト

然レモ職工協同會ハ此社員ニ加ハリタル者ノ生計ノ模様ヲ著シク改良シ勞銀ヲ受テ生活スル社外ノ人ニ至ルマテ多少間接ノ影響ヲ及ホスヘシ凡ソ協同ノ旨趣ハ何レニセヨ結社ノ方法最モ完全ヲ致タス者ハ須ラク獎勵スヘキナリ固ヨリ之カ為ニ天下經濟ノ方法ヲ變スルニ非レモ其結社ノ方法果シテ功效ヲ奏セハ自由勤勞ノ種々方法中ニ於テ職工協同ハ特ニ有益ノ一方ナルヘシ

凡ハ人ハ自己ハ利益ハ為ニ勵マサルハ下益多ク且其擔任益重ケレハ愈勉強シテ其為ス所モ亦愈精良ナルヘシ此二者ハ勞銀ヲ以テスルヨリハ最モ多ク職工協同法ニ於テ行ハルベシ是レ此結社ノ第一ノ利益ナリ

又職工協同會ハ筋骨力及ヒ智識力モ得テ及ホシ難キ者ヲ神速ニ職工ノ腦裏ニ感通セシム何ソヤ曰ク職工協同社ハ多額ノ財本ヲ要ス而シテ之ヲ造出セントニ熱心スル時ハ更ニ一層其力ヲ勵シ且其用ヲ節シ致々トシテ之ヲ増殖セ

ントヲ圖ルヘシ其職工ノ節儉心ヲ涵養スル効驗ノ著明ナルトハ其功最モ雄辯ナル説教ヨリモ優ナリトス且其殖産上ニ於テ斯ク宏大ナル功用ヲ奏スル財本ハ其報酬ハ幾分ヲ得ヘキ權利アルヤ如何ノ理ハ恰モ至極微妙ノ例ヲ舉テ經濟ノ理ヲ説明スルヨリモ工人自己ノ實驗ヲ以テ了解スルニ至ルヘシ是レ此結社ノ第二ノ利益トス

凡ソ蓄積富有ニシテ遂ニ我幸福安寧ヲ得ル者ハ日夜勉強シテ縮衣節食嚴ニ儉約ヲ行フノ徒

ニ在リ是レ最モ協同法ニ於テ做シ得ヘキ者ナ  
 リ  
 然リ而シテ勞銀ヲ受テ生活スル普通傭工ニ向  
 テ此協同結社ノ影響スル所アリ蓋シ傭工ハ協  
 同セル他ノ工人ノ所得常ニ我日給ヨリ甚タ多  
 キヲ見レハ是レ其傭主ニ向テ勞銀ノ増給ヲ請  
 求スル至妙ノ證據タルヘシ此時ニ當リ業主若  
 シ之ヲ肯セサレハ自ラ協同結社スヘシ又協同  
 社員タル者攷々勉強スルモ其所得自己ノ日傭  
 賃ヨリ僅少ナルヲ見レハ強テ己ノ貧困ヲ歎キ

業主ニ向テ不平ヲ訴ヘサルヘン是故ニ職工協  
 同結社ハ多必不工銀ハ適否ヲ計ルハ寒暖計  
 卜為ルハ功用アリテ夫ノ傭工同党ト名タル工  
 人ト業主トノ争鬭ヲ未然ニ防遏スルヲ得ルモ  
 ノナリ  
 殖産會社ノ工業社會ニ裨益ヲ與フル夫レ斯ノ  
 如シ然レレ此會社ノ功效ヲ奏セシムルカ為ニ  
 ハ其結社員タル者ヲシテ特別ノ德義心ヲ有タ  
 シムルヲ要ス鐵道鑛山其他尋常ノ會社ニ於テ  
 ハ社員中ノ二三名其事業ヲ分派シテ之ヲ總理

スレハ事足レリトイヘ氏此會社ニテハ十五名乃至二十名ノ職工共同シテ勞動スルニヨリ此輩ヲシテ同心一致セシメテ其事業ニ練熟セシムルハ固ヨリ容易ノトニアラス心思ノ各異ナル二三名ノ精神ヲシテ常ニ一體同心ナラシムルヲ要スルハ是レ至難ノ事ニ非スヤ又其中ニハ一名若クハ數名ノ管理人ヲ要ス而シテ社員タル者ハ此管理人ノ命令ヲ敬重シ且何事モ公平ヲ旨トスルニヨリ各自ヲシテ各様ノ仕事ヲ心得シメサルヘカラス又工業中ニハ誤解ノ

思想ヨリ出テ、遂ニ失敗ニ至ル者ナキニアラス是レ同謀者ノ姦計ニ出ルニ非ス全ク經驗ノ心上ヨリ出ルモノナレハ斷然之ヲ助力シテ之ヲ遂ケシメサル可ラス衆社員ノ精神ヲ抑制セス自由活潑ナラシメサル可ラス此結社ハ常ニ至小ノ財本ヲ以テ起立スル者ナレハ最初數年ノ間ハ頗ル刻苦經營セサルヘカラス必スヤ百折シテ屈撓セス忍耐勉強シテ後來ノ功效ヲ奏スルヲ要ス

協同會社中殊ニ殖産會社ハ其創立ヨリノ經歷



中ニハ經濟ハ方法ト一身行為上トニ於テ重大  
ハ困難ニ遭遇スヘシ是レ新入社員ノ容易ニ忍  
ビ難キモノナリ

憶フニ殖産會社ハ今日ノ如キ社會ノ人情風俗  
ニハ未タ以テ適セリト云フ可カラス何トナレ  
ハ今日ノ工職人タルヤ互ニ親睦スルノ情ナク  
又某工事ニ共同スルノ目的ヲ以テ互ニ相讓ル  
ノ精神ニ乏シク勤勞ヲ勉メ技倆ヲ充分ナラシ  
ムルノ志ナク結果ヲ待ツノ堪忍カナク又上等  
ノ工職人ハ自己技能ノ希有ナルヲ恃ミ甚タ高

價ノ勞銀ヲ得ルカ故ニ協同會社ヨリ得ヘキ中  
等ノ利益ヲ以テ自ラ満足セサルナリ是レ此徒  
ニモ未タ協同會社ノ適セサル所以ナリ

農工商經濟論卷之四 工業篇中了

157(2)

皇清經義

卷四

思詩食辨序



